



愛隣幼稚園

園だより

.....21.3月

確かめたこと

3月になります。てんとうむし組はあと2週間で卒業です。あっという間に1年が過ぎていきましたが、新型コロナウイルスの感染は、収束に至らないままです。1年前の「園だより」を読み返しましたが、ここまで事態が変わらないとは想像もできませんでした。これからはずっとこのような予測不能な事態が続いていくのかもしれませんが、子どもたちが生きる未来を楽観視することはできません。

2020年4月、愛隣幼稚園も緊急事態宣言の中、休園状態で新しい年度をスタートしました。子どもたちが来ない幼稚園、子どもたちと繋がる方法はないものかと考え、先生たちはにわか YouTuber に。たくさん子どもたち(卒業生たちも)から嬉しい反響が。会えなくても繋がることはできると知りました。中でも、たんぼぼ組の子どもたちと“たんぼぼ仁美ちゃん”が出会い、これから始まる園生活や先生たちを身近に感じてもらえたことは思いもよらない収穫でした。6月、園生活がスタート。やっと始まった年長の名前決め。みんなで考え、みんなのことを決めていく子どもたちの姿、小さくても自分たちの手でコミュニティを創っていく経験が重要であることを確認しました。いつもより100日遅れて“てんとうむし組”と名前が決まりました。合宿はできませんでしたが、てんとうむし組は楽しいことを考え、小さい組の仲間たちをてんとうむしの森に招き、楽しさ面白さを分けてくれました。9月、同じことができないのなら、と先生たちは面白がって<あいりんハッピーランド>を開催。みんなに楽しかった!と笑顔になってもらえて一番嬉しかったのは先生たちで、2学期を頑張る力をもらいました。10月、運動会も初めての計画の中で進められました。“出来ないことを嘆くより、出来る方法を考えよう!”春からずっとそう考え続けてきました。それで実現したのはぎゅっと詰まった運動会。誰もが主体的に参加して充実感を得、楽しいと思える、自分はいいと自信を持つことができる日にと願いました。午前中で終了の運動会は、たんぼぼ組はエネルギー切れにならず。大人の競技にも工夫が必要でしたが、それで良かったと思うこともありました。てんとうむし組のあそびに小さい組のあそびが呼応し皆で創った野外劇。場の作り方を変えたことがお家の皆さんにも分かりやすい野外劇になり、いつもと違う運動会でしたが、それで見つけたことはたくさんありました。3学期、また、緊急事態宣言が発出され園生活も再び緊張の中を過ごさざるを得ないことに。小学校との交流の機会が無くなってしまいそうな年長でしたが、これも瓢箪から駒。これまでなかった小学校とのやり取りに繋がり、子どもたちの不安が安心に変わる経験となりました。

この1年、出来なかったことは数え切れません。しかし、子どもたちは今日を生きていて、未来に向かって歩いています。振り返らない子どもたちに私たちが救われ背中を押されています。子どもたちの声を聴き、一緒に新しい園生活を創り出していこう、と気持ちをシフトすることができました。たくさん嬉しい出会い、楽しい経験、泣いたことも笑ったことも、うまくいかなかったことも子どもたちの成長に繋がって行って今日子どもたちがいます。大人たちがため息をつき、今日を嘆いている時にも、子どもたちはやってみたいことを見つけ、仲間と力を合わせあそびに夢中になっていました。これまで培ってきた力が実を結んでいくてんとうむし組のあそびは、小さい人たちのあそびを刺激し、今日のばら組、たんぼぼ組の園生活の中で少しずつ開花し始めています。コロナ禍の中、私たちが知ったことは「未来はこれまでと同じではない」ということです。分かっていること、決まっていることを知ることやそれに適応する力を育てることに時間を費やすことはできません。『多様性を認め合い、対話し、新しい考え方を創造していく』ことができるような教育こそが求められています。当たり前が何一つなかった1年でしたが、愛隣の保育がこのことを大切にしてくれていることの意義を再確認することができました。巣立っていく仲間が、進級する仲間が、未来を希望を持って歩いて行かれるように私たちがなすべきことは明らかです。さて、てんとうむしが羽ばたく日が来ます。